

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市南小泉児童館		
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団		
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和4年度 18,924人(前年度比 112.9%) ・令和3年度 16,759人 ・令和2年度 15,204人		
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 33,749千円 (33,491千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。		

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシートで確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

### 三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>子どもたちと地域との交流を推進しながら児童館活動を展開してまいりました。のびすく若林、若林区家庭健康課との共催行事「遊びのひろば」では、地域のボランティアや職員を交えて乳幼児親子同士が交流しました。多くの方々がその後の子育て家庭支援事業「赤ちゃんサロン」「なかよしひろば」「おはなしひろば」等に参加し、毎日の遊び場として児童館を利用してくださいました。孤立しがちな育児状況ですが、児童館が出会いの場となるよう、今後も機会を提供してまいります。</p> <p>地域交流推進事業では、規模縮小はあったものの、「児童館まつり」を久しぶりに開催することができました。若林区中央市民センターの学習フェスタと同日開催とし、子どもたちは遊びのコーナーを回り、学習フェスタでは地域の皆さんの読み聞かせに参加したり、一緒に「ポッチャ」体験をしたりしました。「保春院座禅体験」では日頃経験出来ない座禅を経験し、自分の住む地域の歴史を知る機会となりました。</p> <p>児童健全育成事業では、定例行事「スポチャレ」「体育館で遊ぼう」で、体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるよう工夫し、運動が苦手な子どもも友達と一緒に挑戦する姿が見られました。高学年児童にとっても運動遊びは大好きな遊びであり、特に人気があります。</p> <p>放課後児童健全育成事業では、児童館での過ごし方や遊び方について子どもたち自身が考え、課題を解決しようとする力を養うことをねらいとして「子ども遊び委員会」を実施しています。児童館で異年齢で過ごしているからこそ、集団生活のルールを守ることの大切さや相手を思いやる言動の大切さについて考え、気をつけて過ごすよう確認する場面が何度もありました。年度末の「児童クラブお別れ会」では各学年が自分の役割をしっかりと果たし、さらに新1年生を迎えようという気持ちを確認することができました。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、恒例となっている「ポッチャ体験会」を令和4年度も実施した。参加した子ども達の要望を受け、「スポチャレ」の日にも遊べるように用具を借りたり場所を提供し、継続して遊べる環境を整えたり、子ども達がより楽しさを感じながら遊びへの興味が高まるよう、「若チュウ ポッチャ大会」を開催した。チーム戦での参加は上級生が下級生に教えたり作戦会議をリードする等、上級生の活躍の場や異年齢交流の場となり、主体性を育む取り組みとなっている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、ボランティアグループかざぐるまの協力のもと、月1回「布のおもちゃであそぼう」を開催した。親子で布の感触を楽しみながら遊ぶ様子が見られ、2月には「かざぐるまサロン」で布のおもちゃ作りを実施して、家庭でも遊びが継続できるよう支援している。自由来館時には職員が積極的に話しかけ、子どもと一緒に遊びながら同年齢の子の仲立ちをし、親子同士が交流する機会や保護者の様子に併せてグループトークでの情報交換の場を設ける等、安心して子育てでできる支援を行っている。</p> <p>地域交流推進事業においては、「花いっぱいプロジェクト」を令和3年度に引き続き実施した。活動を通して子どもと地域との交流を図り、児童館についての理解を高める機会となっている。地域の関係団体と連携のもとで、日常的に厚生保護女性会や子育て支援クラブの方が、地域の乳幼児親子に児童館について伝えたり誘う声を掛けてくれていることで、児童館利用に繋がることも多く、地域全体で子どもの育ちを支える環境作りに努めている。児童館周辺の昔の写真や子どもの遊び等をクイズ形式で紹介したり、季節毎に近隣の自然を紹介する等、地域への理解と親しみを持てる取り組みも行っている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、玩具の量や種類を増やして一人一人が作品として完成できるようにし、完成品を展示したり写真を撮って子ども自身が達成感や満足感を得られる機会を提供しながら、保護者と共有できるように支援している。また、職員も一緒に複数人で楽しめる遊びの提供をしたり、遊びをじっくり楽しめる場を保障する等、毎日の遊びの充実を図るよう努めている。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課